

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	73rd Scientific Sessions American Diabetes Association(ADA)and 49th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes(EASD)
作成者(著者)	岡畑, 純江
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(1). p.64 65.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	学会参加記
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.61.64
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD77365932

73rd Scientific Sessions American Diabetes Association (ADA) and 49th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD)



岡畑 純江

東邦大学医学部内科学講座（大橋）糖尿病・代謝・内分泌学分野

糖尿病学会における2大国際学会である第73回 Scientific Sessions American Diabetes Association (73rd ADA) と第49回 Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (49th EASD) に参加する機会に恵まれたので報告する。

73rd ADA は初夏の爽やかな2013年6月21～25日の期間、米国イリノイ州、シカゴで開催された。シカゴは五大湖の1つ、ミシガン湖南西岸にある米国第3の都市にして文化の中心であり、ユニークな建築群や全米3大美術館の1つに数えられるシカゴ美術館やシカゴ・シンフォニー・オーケストラなど芸術の街という側面に加え、National Hockey league (NHL) の Chicago Blackhawks や National Football League (NFL) の Chicago Bulls といったプロスポーツの本拠地としても有名である。

大橋病院糖尿病・代謝内科の柴教授が、大橋・大森・佐倉の3病院の協力で実施した脂質に関する臨床研究である“TOHO-LIP” (TOHO-lipid intervention trial using Pitavastatin) の研究成果を、坂本医師と筆者はそれぞれの研究成果を報告した。“TOHO-LIP” はピタバスタチンの臨床作用をアトロバスタチンを対照薬として前向きに検討したものであり、糖尿病患者のサブ解析を担当した。その結果、日本で開発された脂質改善薬であるピタバスタチンは high density lipoprotein cholesterol (HDL-C) を有意に改善し、かつ糖尿病の増悪に因子とならないことが示された。

49th EASD は残暑の気配を残す2013年9月23～27日の期間、スペイン、バルセロナで開催された。バルセロナは芸術の都として、ガウディのサグラダ・ファミリアを代表とする世界遺産を含む多数の美しい建築物が街中に点在しており、また、メッシ率いる欧州サッカーの最高峰、FC



73rd ADA. シカゴの John Hancock Center にて。左から坂本医師、筆者、柴教授。



49th EASD. 右上：バルセロナのシンボル“サグラダ・ファミリア”。右下：FC Barcelona のメンバー。左：学会場にて。

Barcelona (Barça) 観戦でも世界中から観光客が訪れる地中海に面したスペイン最大の海港都市である。

学会では柴教授も研究参加している本邦における多施設共同研究の Japan Prevention Trial of Diabetes by Pitavastatin in Patients with Impaired Glucose Tolerance (J-PREDICT) や本会でも TOHO-LIP の発表がなされた。J-PREDICT study は、スタチンを境界型 (Impaired Glucose Tolerance: IGT) の対象者に投与して糖尿病新規発症の予防効果を検証する初の前向き試験である。筆者はポスターで研究成果の発表の機会を得た。慢性炎症が糖尿病の発症および進展へ寄与していることが最近注目されているが、われわ

れはとくに胃炎に注目し、胃粘膜における慢性炎症と糖代謝の関係について解析してデータを発表した。

糖尿病は、先進国・開発途上国を問わず世界規模で発症予防ならびに合併症の進展予防への対策が喫緊の課題となっている疾患である。今回、糖尿病学の進歩のために世界中から研究・臨床・教育に勤しむ研究者、医師その他の関係者が一堂に集う 2 大国際学会に参加する機会を得て、日々の実直な研究・臨床・教育の積み重ねの重要さと真摯な医学への姿勢の大切さを改めて痛感し、これからの励みとする次第である。